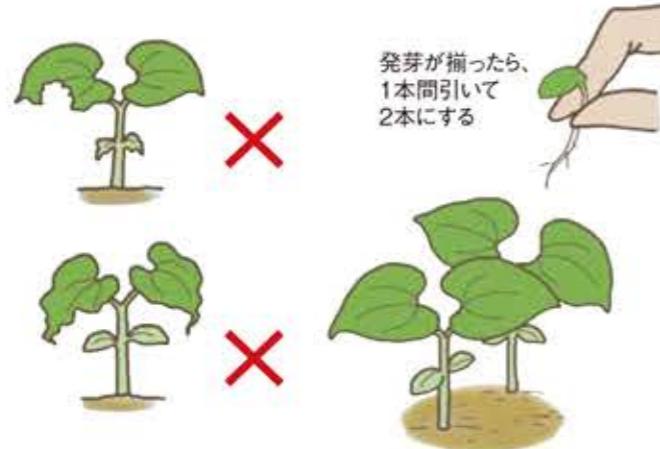


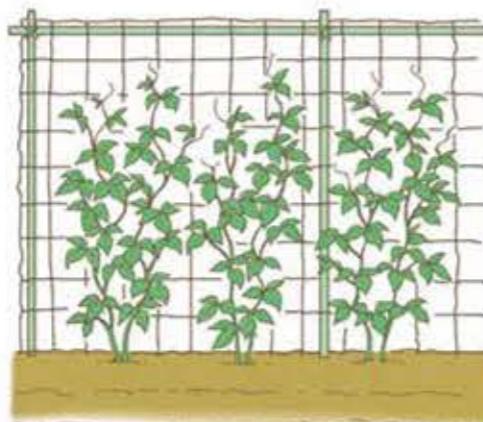
マメが小さくなったり、子葉の形の悪いもの、虫食いや病気にかかったものを間引いてね。



鳥の被害が心配なら、ポットで育苗してから、苗を畑に植えましょう。3粒播いて、生育の良い2本を残して1本間引きます。子葉が豆の形をしている時は鳥がつつきに来るので、本葉が3枚くらいになって子葉がしぶんだら植えつけます。

育 苗

摘芯・追肥



ツルが重くないので、支柱や竹の枝などを立てておくだけでも良いですが、ツルがまとまってしまい収穫しにくいです。きゅうり用のネットを張つておくと勝手に絡んでいき、陽もよく当たります。

支柱立て

葉が5枚出たところで芯を摘むと脇芽が多く出て収量が増えます。そのころ追肥をします。マルチの穴から中には土寄せもしておきましょう。2回目の追肥は盛んに収穫をしている頃に行います。



さやの長さが13~15cmになつたら収穫です。取り遅れると硬くなってしまうのであまり大きくならないうちに収穫しましょう。ほぼ毎日収穫できるようになります。

収 穫

おすすめ資材

「アグリカラー」5,500円(税込)

軽量・防水・伸縮性に優れた作業ブーツ! 丸めて持ち運びができる、土泥がつきにくく折り曲げて高さ調整も可能です。わざわざしない着脱をサポートする「かかとキック」付き! サイズは22.5cm~28cm(5S~3L)を用意しています。色はブラックとネイビーの2色展開!

○お求め・お問い合わせは、グリーンファーム各店までどうぞ。



ほうさくClub!に関するお問い合わせは、各グリーンファーム店まで

◎中央店 ☎29-8177 ◎東部店 ☎62-0665
◎よだくぼ南部店 ☎85-2400 ◎しおだ店 ☎39-8118

ほうさくClub!



第250回
今月は

「つるありインゲン」 に挑戦!

★これがつるありインゲンのスケジュールだよ。Calendar
1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月
種まき 収穫

●施肥基準
(1mあたり一例)
■苦土石灰100g ■堆肥1kg
■BB552号50g ■BB追肥N30号30g×2回

⚠ 文中の肥料等は一例です。地区によっては違う種類で対応している場合もあります。不明な点は、営農相談員にお問い合わせください。



最近では平さやの品種がすっかりおなじみになりました。モロッコインゲンがその代表でしょう。風味があつておいしいですね。多少採り遅れても硬くなりにくいのもありがたい特徴です。サクサク感のある丸さやの品種もいいですね。肉巻きにするときは丸さやの方が見え見えが良いでしょうか。好みで栽培できるのも家庭菜園の楽しみの一つですね。

つるあり種の方が長期間の収穫ができますが、畠が狭い場合や支柱やネットを張りたくない場合は背が低いつるなし種を選ぶと良いでしょう。株間は30cm程度あけます。収穫期間は短いですが、種まきから収穫までが早いです。土がはねで汚れやすいのでマルチを張りましょう。

さやの品種がすっかりおなじみになりました。モロッコインゲンがその代表でしょう。風味があつておいしくあります。多少採り遅れても硬くなりにくいのもありがたい特徴です。サクサク感のある丸さやの品種もいいですね。肉巻きにするときは丸さやの方が見え見えが良いでしょうか。好みで栽培できるのも家庭菜園の楽しみの一つですね。

つるあり種の方が长期間の収穫ができますが、畠が狭い場合や支柱やネットを張りたくない場合は背が低いつるなし種を選ぶと良いでしょう。株間は30cm程度あけます。収穫期間は短いですが、種まきから収穫までが早いです。土がはねで汚れやすいのでマルチを張りましょう。

さやの品種がすっかりおなじみになりました。モロッコインゲンがその代表でしょう。風味があつておいしくあります。多少採り遅れても硬くなりにくいのもありがたい特徴です。サクサク感のある丸さやの品種もいいですね。肉巻きにするときは丸さやの方が見え見えが良いでしょうか。好みで栽培できるのも家庭菜園の楽しみの一つですね。

マメ科は連作を嫌うので、前作がマメ科ではない土地を選ぶとよいでしょう。定植の2週間前に苦土石灰と堆肥を、1週間に化成肥料を撒いてよく耕しておきます。マメ科は窒素肥料が多いとツルだけが伸びて実がつかなくなるので、控えめに施肥します。畠は幅90cm、高さは10cmほどにします。土がしっかりと湿っているときにマルチを張ります。雑草対策にもなります。

株間は30~40cm程度とつて植穴を作ります。植穴作りは瓶や缶を使うと楽になります。植穴作りは瓶や缶を使うと楽になります。植穴作りは瓶や缶を使うと楽になります。

発芽が心配なら播種前の晩に濡らしたり、種はへそを下にして3粒播きます。土をかけて手のひらで押さえておきます。土が種を食ってしまうことがあるので、鳥が種を食ってしまうことがあるので、本葉が出て子葉がしぶむまでは不織布をかけておくとよいでしょう。そのころ、生育の良い2本を残して1本間引きます。残す株が抜けないよう株もとをしっかり押さえて抜くか、ハサミで切り取りましょう。

